

「相談支援部会」平成31年度後期活動報告について

1 開催日時

| | | | | |
|------------|----|----|--------|----|
| 第48回相談支援部会 | 令和 | 元年 | 6月13日 | |
| 第49回相談支援部会 | 令和 | 元年 | 11月14日 | |
| 第50回相談支援部会 | 令和 | 2年 | 1月31日 | |
| 第51回相談支援部会 | 令和 | 2年 | 3月10日 | 中止 |

2 部会員

| 団体等名 | 氏名 |
|----------------|------------|
| 刈谷市障害者支援センター | 伊澤 紀明（部会長） |
| 社会福祉法人 ひかりの家 | 山田 哲也 |
| 医療法人 成精会 | 松本 靖子 |
| 社会福祉法人 観寿々会 | 酒井 克朗 |
| 刈谷市社会福祉協議会 | 井上 真志 |
| 西三河南部西地域アドバイザー | 大南 友幸 |
| 刈谷地域精神障害者家族会 | 長谷川 宏 |
| 衣浦東部保健所 | 梅村 和歌子 |

3 報告事項

(1) 第49回相談支援部会（令和 元年11月14日開催）

ア 事業報告による地域課題の検討について

各相談支援事業所が、7月から9月における相談件数や活動内容、個別の相談支援事例等について報告をした。

また、衣浦東部保健所、刈谷病院、精神障害者家族会から相談事例の報告があり、それぞれの事例から抽出された課題について情報共有をした。

イ 地域移行・地域定着に向けた検討について

刈谷市内の地域移行支援の現状について共有するとともに、今後の地域移行・定着を進めていくにあたっての対象となりうるケースについて確認・共有をした。

ウ 障害と介護の連携

平成30年度に抽出された地域課題の一つとして「障害と介護分野の連携」について意見が出されたことを受け、介護分野との連携を円滑に行うためのより良い関係性を築くため、相談支援事業所（障害）と市内包括支援センター（介護）との交流会を11月に開催した。内容は、各相談窓口の紹介を含めた情報交換で、相互の理解を図るための有意義な機会となった。今後、障害と介護分野が地域における課題を共有し、スムーズな連携体制を構築するためには、継続した意見交換が必要であるという考えから、今年度中に2回目の交流会を開催することを検討していくこととなった。

（2）第50回相談支援部会（令和 2年 1月31日開催）

ア 事業報告による地域課題の検討について

各相談支援事業所が、10月から12月の相談件数や活動内容、個別の相談支援事例等について報告をした。

また、衣浦東部保健所、刈谷病院、精神障害者家族会から相談事例の報告があり、それぞれの事例から抽出された課題について情報共有をした。

イ 地域移行・地域定着に向けた検討について

刈谷市内の地域移行支援の現状について共有するとともに、今後の地域移行・定着を進めていくにあたっての対象となりうるケースについて確認・共有をした。

ウ 障害と介護の連携

刈谷中央包括支援センターの職員を迎え、包括の概要と現状についてお話しした。ただき、その後、障害の相談支援を行う中で、介護分野との連携を必要とするケースでの課題について意見交換した。障害者が高齢化して障害サービスから介護サービスに切り替える時に、サービスの支給量が減ってしまう、もしくは経済的負担が増えることや、介護分野の支援員と顔の見える関係性が構築されていないことからスムーズな連携が図れていない等、様々な課題が出されたことから、次回の障害・介護の交流会は、地区別にグループをつくり事例検討を行う内容とし、2月に開催することとした。

4 平成31年度の目標に対する総括及び今後の検討課題

(1) 事例報告による地域課題の抽出について

各部会員が所属する機関の相談支援の事例を持ち寄り、地域の現状から福祉の課題を抽出した。また、相談支援部会と関連した連絡会の「事例検討研修会」においても、相談支援事業所の困難事例を中心に地域の課題を抽出し、その支援方法等を検討する中で事例や情報を共有することにより、相談支援員の知識・技術と、個別計画の質の向上を図る機会とすることができた。

さらに、今年度は、平成30年度から積み上げた地域課題を取り上げ、事例検討研修会で「課題解決に向けたアプローチ」と「課題解決の方法（理想とする地域のかたち）」（資料1－③別紙参照）について意見交換し、各課題に対し、障害者自立支援協議会の関連する部会や連絡会を整理した。

昨年度に抽出された地域課題の中でも、「計画相談やモニタリングの時期的な分散」、「障害と介護の連携」について改善策が図られており、地域課題として整理されることにより一定の成果に結びつくことが見込まれ、また、相談支援から抽出される課題は、地域の現状を反映しており、将来的な社会資源の開発や改善につながるため、令和2年度も継続して取り組む必要がある。

(2) 地域移行・定着支援に向けた連携強化について

地域での生活を望む人に対し、一定の支援を提供しながら地域における生活に戻していく「地域移行」については、第5期刈谷市障害福祉計画・第1期刈谷市障害児福祉計画の成果目標としているところであるが、今年度、該当事例がなかった。引き続き、施設入所者について本人の意向に基づき地域移行が図られるよう、保健所や病院、家族会や相談支援事業所と連携する体制をとりながら、地域移行の対象者となる可能性のある人への個別のヒアリングを行う等進めて行く。

関連する事項として、愛知県から、平成31年4月から措置入院の人の退院後支援事業を開始し、退院を希望される本人の意向を取り入れ、病院や相談支援事業所等と協力して支援計画を作成していくとの情報提供があり、部会員で共有した。

(3) 障害と介護の連携について

平成30年度に抽出された地域課題の一つとして「障害と介護分野の連携」について意見が出されたことを受け、介護分野との連携を円滑に行うためのより良い関係性を築くため、交流会等の取り組みを開始した。特に、第2回の交流会は、地区別グループに分かれて具体的な事例検討を通して学び合い、相互理解を深める機会とし、顔の見える関係性づくりを図ることができた。

次年度は、連絡会に「地域包括交流会」を新設し、相談支援事業所（障害）と市内包括支援センター（介護）の円滑な連携の強化を図っていく。